

# 博士學位論文

内容の要旨

および

審査の結果の要旨

人間生活学研究科

第 19 号

令和 4 年 3 月

徳島文理大学

はしがき

この冊子は、学位規則(昭 28 年 4 月 1 日 文部省令第 9 号)第 8 条による公表を目的として、本学において博士の学位を授与した者の「論文内容の要旨および論文審査の結果の要旨」を収録したものである。

(学位記番号)	(氏名)	(論文題目)
乙第 8 号	藤 本 正 己	社会調査における自由記述回答の分析方法とその応用に関する研究 -テキストマイニングおよび計量テキスト分析について-

氏名	藤本 正己		
本籍	山口県		
学位の種類	博士(学術)		
学位記番号	乙第8号		
学位授与年月日	令和4年3月15日		
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当		
学位論文の題目	社会調査における自由記述回答の分析方法とその応用に関する研究 -テキストマイニングおよび計量テキスト分析について-		
論文審査委員	(主査) 教授 森田孝夫		
	(副査) 教授 古本奈奈代	(副査) 教授 坂井堅太郎	

## 論文の内容要旨

社会調査では、インタビューや自由記述欄などの自由記述型質問が設けられることが多く、得られたテキスト型データを分析する手法としては、テキストマイニングや計量テキスト分析がある。これらの手法を搭載したソフトウェアは数多く存在するが、分析における課題もある。たとえば、①自由記述回答にある品詞の多い・少ないのみを集計したケースやそれらの結果を可視化したのみの分析結果が一定数見受けられること②ソフトウェアで可能な範囲における分析が行われるような状態が一般化し、分析データに対する適切なアプローチが行われているとは必ずしも言えないこと③ソフトウェアの機能を拡張するような新たな手法が研究事例から見出すことができないこと、等が挙げられる。このような背景から自由記述回答の分析には多くの課題があり、テキストマイニングや計量テキスト分析は発展途上の手法と言える。

本論文では事例として社会福祉関係の調査1件および大学認証評価に関する調査2件を用いた。自由記述回答に対し、調査目的やデータの特徴に応じてテキストマイニングや計量テキスト分析を適切に応用し詳細に分析することにより、社会福祉施策や大学運営業務対し新たな具体的知見を示すことができた。筆者の発案による複合的な分析手法も提案されており、今後のテキスト分析の発展に寄与すると考えられる。

## 論文審査結果の要旨

最終試験において、専門領域に対する十分な知識及び英語力を有していることが確認され、申請者が博士（学術）の学位を付与するに十分な学力を有するものと判定した。

学位論文における文献の引用も適切であり、内容に対する理解も十分である。

論文審査会を兼ねた公開発表会（令和4年2月10日）において論文発表を行い、質疑応答では十分な説明が行われた。

以上の事より、本学位請求論文は、本学学位規程の手続きに従い所定の審査及び試験に合格したので、博士（学術）の学位を授与するに値するものと判定する。